

支援の必要な子供たちの協働学習はどうあるべきでしょうか。現在、協働学習は教育全体で進めるべきものとして提示されています。様々なケースがあるでしょう。

これは2019年度にアニメ制作の原画作りをする時のスコアです。東根市や山形市の子供たちと一緒にアニメ制作をするにあたり原画を制作するペアを模索した時期があります。

そして担当する文化部でもペアの原画づくりをしました。技量や意欲を毎回考察しながら原画づくりを進めていき、アニメは完成しました。

その過程で中学生のペアづくりを試行錯誤した結果です。

技量と意欲をもとに中学生の制作者をABCの3段階に分けて制作活動をしました。その結果のグラフがこれです。

AAつまり習熟度と意欲の高い製作者ペアは意欲も成果も上がっていく。というものです。A BやBCという習熟度の違うペアは意欲や成果がだんだん落ちていく、という結果になりました。

ではBやCの制作者はどうすればいいか？

AA、BB、CCの習熟度別のペアを組んでみました。これは違う習熟度ペアよりの意欲が高いという結果となりました。

習熟度が違うペアはAの人はだんだん不満が募り、Cの人は劣等感を感じるようでした。

では学校生活での、他の活動にあてはめます。

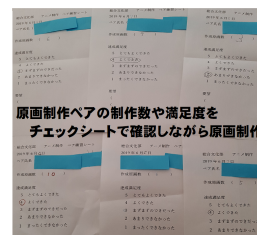
例えば部活動です。テニス部、バドミントン部、卓球部の顧問または選手経験のある方はいますか？テニス、卓球などペア競技のあるスポーツはたくさんあります。選手ペアでエースと下手な選手を組ませ、試合や練習をしたらどうな



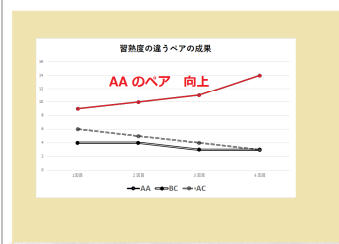
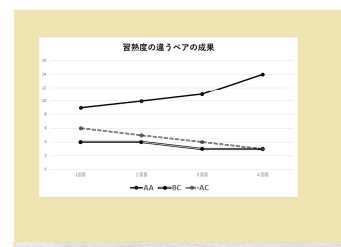
アニメ 原画制作
東根民話の会 サクラノボ民話館



中学生も放課後のクラブ活動で参加
ペアで原画の制作活動をした



原画制作ペアの制作数や満足度を
チェックシートで確認しながら原画制作



るか？やはりエースは成果に不満が出るかもしれません。下手な選手は自分にはできない、と劣等感を持ちます。部活でエースと下手な選手を組ませることのデメリットは理解されています。

では学習ではあり得るのか？

いかにも習熟度の低いペアやグループは作りにくいです。ですが、習熟度別のほうが意欲や成果が高まる。そういう仮説のグラフになっていると思います。支援が必要な生徒のチェックシート結果を見てください。

グループ学習に課題がある生徒が多いです。特にペア学習などでは自分ができないことを突き付けられ、劣等感を持つ場合があるようです。

親和性の高い少人数の学校などでは、こんなことが無く、うまくいくこともあるでしょう。私も複式の小さい学校ではどんな協働学習もうまくいった覚えがあります。ですが、そうでない場合もある、時には習熟度別が必要、という結果のグラフではないでしょうか。隣の席や生活班で即座にグループ・ペアを作らないと組めないという事情も分かりますが、ペア編成について考えてみてもよいかと思います。

END

